

ときを越え  
受け継がれるもの

乙女川

## Ⅱ 水沢区市街地周辺 Ⅱ

胆沢平野を潤す水路の一つである小  
違堰は、胆沢区若柳地内で茂井羅中堰  
から分水し、水沢区内を流れ小谷木橋  
周辺で北上川に合流する。水沢区市街  
地ではこの川を「乙女川」と呼ぶ。か  
つて川は水沢城の外堀として利用され、  
漁業などの立ち入りが制限されていた  
ことから「御留川」と呼ばれており、  
乙女川の名前はそれが由来とされる。

明治22年には川をせき止めて水泳場  
が作られ、子どもたちでにぎわったと  
いう乙女川。現在では川のそばにいく  
つか公園が作られ、憩いの場となっ  
ている。その一つである乙女川河口公園  
の物見やぐらからは田んぼアートを眺  
めることもできる。

水沢の年中行事の一つである乙女川  
の灯籠流しは大正15年に始まった。中  
断を挟み、担い手を代えながらも今日  
まで続いている。ことしも8月20日に、  
故人をしのぶともしびが川を流れる。



1 乙女川公園周辺より。農業用水路の役割を持つ川には、この季節、大量の水が流れる 2 川沿いの公園の一つである堀之内親水公園。水沢地区センターの東に位置し、堀之内公園に隣接するこの公園にはやぐらや遊具などが整備され、気軽に訪れることができる 3 水沢病院そばの搦手橋付近から行われていた乙女川の灯籠流しは乙女川公園に会場を移し、実行委員会主催の下、平成26年に復活した(27年8月20日撮影)

広告

